



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

一人一人の願いが実現しますように

7月5日(火)に、リモートによる七夕集会有りました。各クラスで、どんなクラスにしていきたいかをみんなで考えたクラスごとの願いを各クラスの代表者が全校に向けて発表しました。どのクラスも素晴らしいものでした。

また、一人一人の願い事もクラスごとに廊下に掲示してあります。願いには、前向きな思いが溢れていて、一人一人の思いに触れる中でたくさんの力をもらえましたしこれから大きく羽ばたいていく可能性をもつ子供たちが自由にのびのびと自己実現できるように、今、目の前にいる子供たちにできることは何かを考えて関わっていききたいという思いを強くもちました。

先日、研修会に行った際、講師の先生から、東京大学名誉教授の佐伯胖先生の言葉の紹介があり、考えさせられました。その言葉というのは、「子供はあてっこしている」という言葉です。子供は、大人がどういふ答えを欲しているかを探っていて、それに見合う答えを探そうとしているというものでした。明治大学の教授である諸富祥彦先生も高校に講演に行った際に、生徒全員に唱えさせる言葉があると伺ったことがあります。それは、「私は、先生の期待に応えるために生きているわけではない」

「私は、親の期待に応えるために生きているわけではない」と。佐伯胖先生も諸富祥彦先生も心理学の先生ですが、長年にわたる研究の中から導き出された視点であるお二人の言葉を、子供に関わる大人は真摯に

受け止めていくことが必要なのではないかと思います。

平成30年度に道徳が教科化されましたが、価値の押し付けをせず、様々な価値に触れさせ、自分事として考えていく授業を行っています。道徳の教科化が始まる際、道徳の研究会に参加しましたが、その中で価値に触れさせながらも、結果良くない方向の答えをもつ子がいたらどうしたらいいのかという質問が出た際に、講師の先生から、子供たちはよりよく生きたいという思いが根底にあるのだという話があり、私自身、納得したことを覚えています。

子供たちは、日々起こる様々な出来事、友達や大人との関わりを通して、心にある琴線に触れたり、新たな琴線が張られたりしながら、心の豊かさと共に、考える力も促されていくのだろうと思います。

子供のもつ力を信頼し、子供たちが自分なりに考えて答えを導き出す過程を尊重しその力を引き出すという視点で関わっていきたいと思います。「どう思うか」「どうしたらいいと思うか」と子供自身の考えを聞かせてほしいという関わりを周囲の大人が意識していくことで、子供たちの姿が輝いていくものになるのであれば、日々実践していく価値があると考えます。

七夕集会に向けて、各クラスでまとめあげた願い、一人一人が心の中から出した真っすぐな思いをもつ子供たちの願いが叶うよう、祈りつつ関わっていきこうと思います
*学校ホームページにて、学校の様子を随時掲載しています。七夕の様子も掲載していますので、ぜひ御覧ください。